

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHEC1110	生活環境論	1	身近な生活環境問題について考察を行い、我々の生活様式や考え方といったものが生活環境に密接に結びついていることを知る。また、生活中のモノやデキゴトをどのように意識して捉えているかといった環境観や価値観が生活環境問題を議論する際に重要となることを学習する。	生活環境にある疑問や課題を自ら発掘し、将来の研究において自ら問題設定ができる能力を養うことを目的とする。		◎				◎				
20UHEC1120	基礎造形実習	1	幾何学の基本法則を効果的に用いること。幾何学図形の特徴と構成についての基本法則を身につける。	イメージやアイデアを形態または立体によって表する方法を学ぶ。				○		◎		◎		
20UHEC1130	生活科学	1	生活環境学科での学習において必要となる基礎的な科学的知識の習得を目的とし、科学的な視点で生活環境中の様々な現象を捉える能力を養うことを目指す。	今後の専門科目の学習や研究で必要となる数学、化学、物理、および生物の基礎的な知識について習得することを目標とする。		◎					◎			
20UHEC1140	ファッションビジネス論	1	ファッションビジネスの構造を学び、そこに存在するファッションビジネス特有の機能を理解する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ファッションビジネスの機能を理解し、日々変化するアパレル業界への対応力を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎						◎			
20UHEC1150	アパレル構成学	1	最も身近な生活環境を作り出す衣服について、人間にとって着心地の良い衣服とは何かという理念を持って、種々の観点から衣服の構造の原理を学び、衣服設計における基礎的知識と共に応用能力を養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	この科目は生活環境学科を学ぶ上で6コース共通科目であり、専門科目として広い視点からアパレル全般について学び、毎日着用している衣服について専門的立場から分析ができるようになることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						◎		◎		
20UHEC1160	住居学	1	住まいのあり方を学ぶ基本として、住居の中で行われる生活行動や各生活行動からみた空間のあり方、健康で快適な住まい方および住まいの管理方法を学び、これからの住まいについて考える。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	これからの望ましい住まいのあり方を考えることができる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			
20UHEC1170	建築概論	1	我々の身の回りの生活環境を形作っている建築、まち、都市とはなにかを理解し、豊かな生活環境の創造にとって重要な建築・都市空間のデザインの手法について理解を深めることを目標とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	建築、都市の持つ様々な特質をその背景や意義などを含めて理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHEC1180	基礎・設計製図演習	1	建築、空間設計において、設計図面はデザイン意図を他者に伝えるための重要な手段であり、さらには優れた建築・空間を理解するには、図面を読み取る能力が必要である。この科目では、設計製図における基礎知識と表現技術を学び、図学、製図法、空間の各部位、構造、スケールについての理解を深めることを目的としている。	次学期以降の設計実習に必要な基本的な製図知識と技術を習得し、各自が考案した小空間を設計図面（平面、断面、立面図）、透視図、模型で表現できる。		○		◎			◎								
20UHEC1190	生活科学演習	1	実験を含む演習を行い、これからの4年間に生活環境学科で学ぶために必要な科学の基礎的な知識・技術や心構えを体得するとともに、科学的事象について考察を加えてまとめる能力を身につける。	現象を科学的に考え、定量的にとらえる能力を修得する。科学や数学の基礎知識について演習をとおして学ぶとともに、基本的な器具の取扱いや試薬の調製などの実験に関する技能を身につける。		○		◎			◎								
20UHEC1200	服飾デザイン論	1	今日の服装は多様化し個性化が求められている。服飾デザイン論では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。 1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的側面を認識する能力を獲得する。 2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。 3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎知識を習得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							◎			◎					
20UHEC1210	アパレル構成学実習 I	1	人体を被う衣服の一連の製作過程を学び、被服構成の知識や技術を修得する。またこれらを活用発展させる能力、時代の持つファッション性や美的感性、さらに既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	原型を使用した衣服パターンの作図と衣服の組み立て工程の理解、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性への理解、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（工業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。									○		◎		◎		
20UHEC1220	インテリアデザイン論	1	快適な生活環境を創造する上で、インテリアデザインの果たす役割はとても重要である。この授業では、インテリアデザインの概念の発生から現在にいたるまでの変遷を検証し、インテリア空間を構成している要素とその組み合わせの仕組みを学び、第2の衣服としてのインテリアデザインのプロセスを理解する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	インテリアデザインに必要な基礎知識を習得し、そのプロセスと役割を理解する。ヒューマンスケールからの発想が環境づくりに生かされて、人間を包み込む空間すべてが対象にされることを認識する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。											◎		◎		
20UHEC1230	グラフィックデザイン基礎実習	1	グラフィックデザインの手法を用いて作品を制作しながら、デザイン概念を理解する。	様々な表現に活かせるグラフィックデザインの基本スキルを身につけるとともに、デザイン全般における基礎的な技術力・表現力を修得する。											○		◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHEC1240	環境共生概論	1	近年、環境保全の重要性が高まっていることは周知の事実であるが、環境を守ることがわれわれの生活の豊かさやどう関係するのかといった根本的な問いに向き合う機会はそれほど多くない。本講義では、環境に関連する基本的な事柄を学んだ上で、われわれが生活環境の改善に取り組んでいく際に、どのように環境問題と関わっていくべきか議論・考察することを目的とする。	環境問題は独立した問題ではなく、生活に密着した問題であるということを理解し、その上で生活の利便性と環境負荷のバランスをとった生活の提案や改善を議論していくための知識や方法論を修得する。	○	◎				◎				
20UHEC1250	環境デザイン演習	1	居住空間や公共・商業空間、景観など、屋内外の環境を健康的で快適にデザインするために、環境を客観的に見る力を身につけることを目的とする。	空間の心理評価法、機器による測定法を中心に、環境を客観的に把握するために必要な技術の基礎を習得する。		◎		◎		○				
20UHEC1260	建築設計基礎実習	1	スケール感覚を鍛えた上で、様々な空間を特徴づける空間構成要素への理解を深め、小空間を設計するプロセスを学ぶ。加えて、基礎・設計製図演習で習得した製図技術、立体表現スキルの定着を図る。	空間を構成している要素、素材を理解し、適切なスケール感覚を身につけている。空間の構成要素がもたらす効果を理解し、要素を使って小空間を立案、具体化できる。		○			◎		◎			
20UHEC1270	まちづくり基礎演習	1	まちについての基礎的な理解を深める。まちの歴史や成り立ちを学び、まちの魅力や課題を発見する方法を習得する。	まちづくりの基本プロセスを理解する。まちづくりのための基礎的調査方法を習得する。まちの魅力や課題を発見しプレゼンテーションする方法を習得する。					◎	○				
20UHEC2110	色彩学	2	色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	色と光を科学的に捉える力をつける。日常生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようになることが到達目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎				
20UHEC2120	統計学	2	近年、統計的にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることがますます必要となっている。本科目では、統計についての理論面を学ぶことを目的とする。	データ分析や研究計画の際に必要な、標本抽出や母数の推定などの基礎的な用語、各種統計量の意味、帰無仮説や有意確率など検定で用いる基本的な概念、および数学的な背景について理解する。		◎				◎				
20UHEC2130	統計調査演習	2	近年、統計的にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることがますます必要となっている。本科目では、実際にPCで統計解析を行う際の手順を学ぶ。	集計されたデータに対して基礎統計量を計算し適切な図表として表現することや、簡単な検定や回帰分析を行うことができる能力を習得する。					◎		◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2											
20UHEC2140	阪神間文化論	2	私たちが学ぶ、「阪神間」という地域では、「阪神間モダニズム」という用語が言及されることも少なくなく、この「モダニズム」が一つの特性となっている。「阪神間モダニズム」のなかで展開されてきた芸術・音楽・ファッション・生活スタイルなどを、阪神間モダニズムを象徴する建築でもある甲子園会館（旧甲子園ホテル）のような実際に現存する「阪神間」という空間において、フィールドワークを含めながら学びたい。	生活環境学を専門とする私たちが、身近な地域の生活環境を学ぶだけでなく、同時に「モダニズム」とは何かということを考えていくことによって、それぞれの創作にいかしていきたい。単なる地域の学習ではなく、これからの創造のための学びを目標としている。	◎						◎								
20UHEC3110	生活美学	3	日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。	総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。	◎						◎								
20UHEC2150	生活文化演習Ⅰ	2	身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。	学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。	○				◎			◎							
20UHEC2160	生活文化演習Ⅱ	2	暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。	暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。				○			◎		◎						
20UHEC3120	生活文化演習Ⅲ	3	生活文化を読み解くには様々な方法論が存在するが、その中で最も一般的かつ基本的な手法といえるのが、モノやコトの歴史を知ること、つまり、対象となるモノやコトの変化を時系列に並べ、何が変化し、何が変化していないかを調査によって明らかにしていくことである。この授業ではその手法の習得だけでなく、対象となるモノやコトに対し新たな知見を得ることを目的とする。	生活文化における情報の収集、整理、分析に必要な技術を習得することを目標とする。	○					◎		◎							
20UHET2110	界面科学	2	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。		◎						◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHET2120	界面科学実験	2	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことが必ず行われる。特に繊維製品のメンテナンスに関わる知識は極めて重要である。色や柄がいくらよくても、洗濯しにくかったり、洗うことで品質が低下しては困る。洗浄の主役は、界面活性剤である。ここでは、実験を通して、洗浄を中心に界面の科学をより深く理解することを目的とする。	洗浄や洗浄に関係する事象を、実験を通して、表面的ではない、本質的な理解に至ることを目標とする。		○			◎		◎			
20UHET2130	繊維学	2	衣服素材である繊維がデザインや被服の機能に与える影響は大きい。快適な衣生活のためには、繊維素材の種類や性能を理解し、使用目的にあった素材の選択ができる教養を身につけ、制作、取り扱いなどに役立つ幅広い資質を養う。	衣服を構成している素材である“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、実生活の中で役立たせることを目標としている。		◎					◎			
20UHET2140	繊維科学実験	2	「繊維学」「繊維製品材料学」で学んできた知識を実験を通してより明確なものにする。また、実験方法を工夫・実行し、物の考え方を学び、レポートにまとめることは、日常の勉学においても有意義であり、実験の意義は大きい。	被服材料である繊維について、性質や適性を実験によって観察し、物事や現象の本質を理解する。		○			◎		◎			
20UHET2150	繊維製品材料学	2	被服やインテリア製品に要求される消費性能を把握し、糸、布、その他の被服材料に関して、製造プロセス、性能などの基礎的知識を習得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	繊維製品の織物や編み物、その他二次製品の組織や物理的性能を理解し、適材適所に応じて活用ができる能力を養い、無駄な消費を慎み、豊かで快適な生活が送れることに寄与することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			
20UHET2160	繊維製品材料学実験	2	「繊維学」や「繊維製品材料学」で学んだ繊維、糸、布の構造や形態、特性や性能について、実験をとおして実際に視覚的に体験することで、繊維材料の知識をさらに深め、快適な衣生活に必要な実践的能力を身につける。また、テキスタイルアドバイザーとして活躍をする場合に、必要となる試験の原理と測定方法の習得も目的とする。	繊維製品に使用されている糸や布の構造や特性に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施および応用ができる能力を養う。		○			◎		◎			
20UHET3110	衣環境学	3	衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で着心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものである。ここでは、温熱的、衛生的に快適で健康的な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とする。	人はなぜ衣服を着るのか。衣服に何を求めるのか。若い女性にとっては特に、色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。ここでは、衣服を人間の最も身近な環境として捕らえ、心地よい衣服を考え、衣生活において実践できる能力を育成することを目標とする。		◎					◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号								
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2					
20UHET3120	衣 環 境 実 験	3	我々が今後も温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活を形成するためには、衣服の特性や性能がヒトに及ぼす影響やヒトが感じる着心地、快適性を正確に評価し、その結果を研究や開発に活かすことが重要になる。その評価方法を習得し、「衣環境学」で学んだ知識をさらに深め、快適で健康的な衣服の研究・開発の基礎的実践力を身につける。	衣服がヒトに及ぼす影響や、ヒトが衣服を着用して感じる着心地、快適性を評価する方法を習得する。さらに、対象となるヒトの基本特性と心理・行動・生理反応との関係についても実践的に学び、人間にとって温熱的、衛生的に快適で健康な衣服の条件を理解する。		○		◎	◎				
20UHET3130	染 色 加 工 学	3	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		◎			◎				
20UHET3140	染色加工学実験	3	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わることを、本質的な理解につながるよう、実験を通して学ぶ。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		○		◎	◎				
20UHET3150	衣 料 分 析 法	3	身の回りにある衣料品は、性能を向上させるため改良改質され、さまざまな試験に合格したものである。その過程においても顧客からのクレーム処理においても、迅速・正確な分析が必要とされている。汎用の分析機器全般について理解力と応用力を養成することを目的とする。	科学的見地からクレーム処理、商品開発を担い得る基礎学力とデータの解析力を身につけることを目標とする。		◎			◎				
20UHET3160	衣 料 分 析 実 験	3	衣料分析学で学んだ機器分析法に関する知識をふまえて、観察・測定、解析をとおして理解を深めることによって、目的に応じた分析機器の選択・試料の調整法、機器の使用方法を身につけることを目的とする。さらに測定結果の取り扱いや解釈をとおして繊維や加工剤の構造と性質との関連を理解することを目的とする。	構造観察や測定を必要に応じて実施できるようになることを目標とする。すなわち、分析機器の測定原理を理解し、分析目的に応じた機器を選択できることおよび、機器を用いた実験を通して高分子物質や繊維、繊維加工剤などの鑑別ができるようになることが目標である。		○		◎	◎				
20UHET2170	品 質 管 理	2	グローバル化が進む今日、品質やその要求水準は多様化される傾向が強くなってきた。ここでは企業における品質管理の重要性を認識し、基礎的な品質管理の進め方、およびその手法についての理解を深めるとともに、 Apparel産業における品質管理の骨格を知る。	現代、品質管理はどのように行われているのか、その手法を知るとともに、Apparel製品が製造流通段階を経て消費者の手に渡るまでに、企業の各部門でどのように品質管理がおこなわれているかを理解する。また繊維製品のクレーム事例をもとに、品質管理の問題点について考える。		◎			◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2					
20UHES2130	生活デザイン実習Ⅱ	2	個人と、身体を包む物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。実素材による制作を通じて、素材の特性や加工方法を理解する。	実素材を使用した実物をデザイン・制作することで、構造・強度を踏まえた立体構造を理解するとともに、各テーマにおける人と物との関わりをより深く考察する。 企画、デザイン、制作のプロセスを通じて、プロダクトデザインの基礎を習得する。制作を通じて、素材の特性について理解を深めるとともに、加工方法と工具などの使い方を習得する。				○		◎		◎						
20UHES3110	生活デザイン実習Ⅲ	3	複数の人たちと物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。制作を通じて、素材の特性や加工方法を理解する。	日常生活における人・物・空間の関係についてより深く考察するとともに、インテリアデザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って、調査、調査資料作成、アイデア展開、モデル制作、プレゼンテーションの技術を習得する。				○		◎		◎						
20UHES3120	生活デザイン実習Ⅳ	3	複数の人たちと複数の物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。	複数の空間における、複数の人たちと、複数の物との関係を考察する。実践的な一連のデザイン技法を総合的に習得する。				○		◎		◎						
20UHES2140	デザイン技法Ⅰ	2	実際に手を動かしながら、多種多様な素材に触れ、その特性を理解し、素材を加工するスキルを学ぶ。	様々な素材の特性を理解した上で、その特性に合致した作品を考案し表現する基礎的な技術を学ぶ。				○		◎		◎						
20UHES2150	デザイン技法Ⅱ	2	プロダクトデザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って作品を考え表現するスキルを学ぶ。	様々な表現技法の特性を理解し、スキルを学びながら作品を考案し制作する。また作品をプレゼンテーションするためのスキルを向上させる。				○		◎		◎						
20UHES3130	デザインリサーチ実習	3	調査の手法と、エディトリアルデザインの基本スキルを習得する。	物や空間をデザインしていくにも、社会的な問題や、その解決法の前例を調べる必要がある。また、デザインしたものは、適切な相手に存在が伝えられて、はじめて世の中に広まっていく。文献調査、観察法をはじめとした様々な調査手法と、グラフィックデザインやエディトリアルデザインを駆使した伝達方法を習得する。	○					◎		◎						
20UHES2160	視覚文化論	2	私たちを取り巻く様々な視覚文化を理解する。	近代以降の社会は、視覚偏重の社会と言われる。あらゆる物事において、視覚的要素は、ますます重視されている。タイポグラフィから映像に至るまで、いわゆる視覚文化（ヴィジュアル・カルチャー）と呼ばれる領域について、幅広く学んでいく。	◎						◎							
20UHES3140	インテリアテキスタイル概論	3	我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身につけ、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。	多くのインテリアテキスタイル商品が溢れ、物の価値が一律では量れない時代、物づくりを改めて見直すことで、物と人の関係性を取り戻し、物の評価や価値を正しく見極め、生活に役立てられる力を養う。				◎				◎						
20UHEE2110	人間工学	2	本授業の目標は、私達が日常生活して行く上で最も身近な道具や設備、環境等と人間との間に存在する諸条件を学び、それらの関係がより適正に結びつく条件を導き出すことにある。さらに、消費者としてモノ選びの際に、人間工学の視点から人とモノとの関係を正しく見つめる能力を養う。	人間工学の視点からデザインでき、さらに消費者として適切なモノを選ぶことができる。				◎				◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHEE3170	福祉生活環境概論	3	高齢者が慣れた生活環境で住み続け人間的な自立生活を送るために、住環境の整備が今や社会全体の課題となってきた。本講では生活者の視点に立ってあらゆる人達の暮らしを生活の拠点としての住環境という側面から取り上げ、安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。	安全・安心で健康的な人間らしい自立生活を送れる環境づくりを考える能力を養う。		◎				◎				
20UHEE3180	福祉住環境実習	3	高齢者などが住環境内での不自由と感ずる点や配慮すべき点などを、実習を通して検討することにより、安全・安心で自立生活を送れる環境について考察し、理解を深める。	現在の生活環境での問題点に気づき、安全・安心で人間らしい自立生活を送れる環境づくりを提案できる能力を養う。		○		◎		◎				
20UHEE3190	建築設備	3	建築内部とその近傍の環境を適切に整え、建築内部の人間の活動を支援する建築設備について、その原理や構成を理解する。	建築において、メカニカルな方式や自然を活用する方式などを用いて室内環境を整える種々の方法とその原理についての知識を習得することを目標とする。		◎				◎				
20UHEE2150	建築材料学	2	建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。	建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。		◎				◎				
20UHEE3200	建築材料学実験	3	主要な建築材料に関する実験を通して、材料や測定機器に触れることによって、実験計画と測定法の基礎を習得し、諸材料の性能や特性を明らかにする。加えて、建築構造および建築生産に関する基本的事項の理解を深める。	主に主要構造材料（コンクリート、鋼材、木材）について、基礎的な実験手法を通して、性質・性能を理解させる。		○		◎		◎				
20UHEE3210	建築施工	3	住宅工事の発注から完成に至るまでの、各段階の内容について、そのあらましを解説し、一連の住宅施工の流れを理解する。	住宅建築（主に木造・鉄筋コンクリート造）に関する、企画～施工～竣工～維持管理までの流れおよび管理ポイントについて理解させる。		◎				◎				
20UHEK2110	建築計画学Ⅰ	2	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは住宅・集合住宅を設計する上で必要となる計画理論について学ぶ。	住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などについて修得することを目標とする。		◎				◎				
20UHEK3110	建築計画学Ⅱ	3	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。	住宅以外で一般の人々に比較的なじみが深い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。		◎				◎				
20UHEK2120	住宅設計	2	生活行為のベースとなる住空間の構成を学んだ上で、設計条件の整理、デザインワーク、製図、模型表現を通じて、基本的な住宅設計のプロセスを習得する。同時に、人体や物品の寸法、各室の機能、室間の関係、外部と内部、プライベートとパブリック、および個別のテーマをふまえた設計力を育成する。	立地条件、住み手のライフスタイルなど、様々な設計条件を分析し、核として設定した生活行為を支える住空間からインテリアエレメントまでをトータルに構想・立案できる。立案した住空間を具体的な戸建住宅として設計、提案できる。			○		◎		◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2					
20UHEK2130	建築CAD実習	2	設計製図の基本は、鉛筆と定規を使って紙の上に美しく、力強い線を描くことである。コンピュータを使って設計をすることが主流の現在でもこのことを忘れてはいけない。CADに使われるのではなく、CADを自分の利用目的にあわせてうまく使いこなせるようになることが目標である。	2次元CAD機能を使い、設計図書（平面図、立面図、断面図など）が自由に描けるようになることを目標とする。		○				◎		◎						
20UHEK2140	建築・インテリア設計Ⅰ	2	不特定多数の人々が集まる場所と子供の育成空間の構成を学んだ上で、設計条件の整理、デザインワーク、製図、模型表現を通じて、賑わいを創出するコミュニティ空間と子供の育成に寄与する建築の設計力を育成する。	不特定多数の人々に供する空間の標準規格、子供の身体に合わせた空間エレメントの素材、寸法、および子供の行動とそれに対応する空間機能を理解している。賑わいを創出する空間、子供の育成に寄与する具体的な空間を設計、提案できる。		○				◎		◎						
20UHEK3120	建築・インテリア設計Ⅱ	3	人のすまいとは何かについて、戸建て住宅、集合住宅（学生寮）の設計を通じてより深く理解する。生活空間としての内部空間、建築と周辺環境などに配慮した設計能力を習得する。	すまいへの要望、周辺環境の状況などを配慮しながら、望ましい住環境とは何かを考え、それを設計に反映させる。		○				◎		◎						
20UHEK3130	都市・建築設計	3	日常生活に密着している公共建築物を設計する手法を習得する。公共空間としての内外空間のあり方、周辺への影響などに配慮した設計能力を習得する。	公共建築物の設計を通じて、その設計手法を習得するとともに、建築の都市との関連、都市および建築における公共性について把握する。		○				◎		◎						
20UHEK2150	世界建築史	2	世界の建築について、その時代、地域の特色と、時間的な展開（歴史）や空間的な拡がり（地理）の概要を理解することを目的とする。	それぞれの地域や時代による構造や意匠の特徴、あるいはそれらの共通点について理解する。	◎							◎						
20UHEK2160	日本建築史	2	日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。	日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。	◎							◎						
20UHEK3140	近代建築論	3	現代建築の基盤となった近代建築について、時代背景に対する建築家の生き方を学び、その理念・方法を視点に、主要作品の特徴を理解する。	近代建築はいつ、どこから始まりどのような課題を持っていたのだろうか。また、インテリア・建築のデザインが、文化や社会における価値を保つには、どのような条件を必要とするのだろうか。これらの問いに対する答として、建築家の理念・方法（考え方）と作品の特質を理解することを目標とする。	◎							◎						
20UHEK3150	現代建築論	3	伝統と新しさ、生活ともの、行為と形態など多角的視点から、建築をめぐる空間表現についての考えを深める。	美が人を感動させる「目的」を持っているとすると、機能と美の境界線はどこにあるのだろうか。また、人の生活と、ものや建築が調和しているとはどういうことだろう。このふたつについて、考える力を身につける。	◎							◎						
20UHEK2170	建築一般構造Ⅰ	2	3つの主要な構造（木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造）を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成について基本的な知識を習得する。	建築に関する用語を学び、建築全般に対して幅広く理解する。		◎						◎						
20UHEK3160	建築一般構造Ⅱ	3	建築物の一般的な成り立ち（重力や地震力に抗して建っている原理）と、架構形式と建築造形の関連を理解する。	多様な各種の架構方式の基本原理と、それによって形作られる構造物の造形との関係を理解することを目標とする。		◎						◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHEK2180	構造力学Ⅰ	2	建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。	建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。		◎				◎				
20UHEK2190	構造力学Ⅰ演習	2	「構造力学Ⅰ」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。	建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。		○		◎		◎				
20UHEK2200	構造力学Ⅱ	2	「構造力学Ⅰ」を基本とし、不静定構造物の解法を理解すると共に、「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学的特性を理解する。	実際の建築物に近い構造物モデルである、不静定構造物の断面力を求めることができること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の安全性の確認ができること。		◎				◎				
20UHEK2210	構造力学Ⅱ演習	2	「構造力学Ⅱ」で習得する「不静定骨組みの応力解析法」について例題の解説や演習問題を解くことで、より深く理解し習得すること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学特性と部材断面算定手法を例題や演習問題を解くことでより深く理解し習得すること。	例題や演習問題で解いた「不静定骨組み」の応力解析が自力で解けること。および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の断面の安全性の確認ができること。		○		◎		◎				
20UHEK3170	建築法規	3	秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。	都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。		◎				◎				
20UHEK4110	測量実習	4	測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で出会う。そこで測量を講義、実習を通して基礎から体系的に学び、また都市計画・防災・マーケティング等の分野に使われているGIS（地理情報システム）や衛星画像を用いたリモートセンシングについても習得することを目的とする。	学生が測量器械で得たデータのパソコン解析・GIS・リモートセンシングなどを通して、建築・都市計画に必要な測量基礎的知識および技術とその利活用法を習得する。					◎		◎			
20UHEU2110	景観論	2	景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。	風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。		◎				◎				
20UHEU2120	まちづくり論Ⅰ	2	まちづくりについて、基礎的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。	まちづくりについて、実践し得る基礎的な知識を習得する。		◎				◎				
20UHEU3110	まちづくり論Ⅱ	3	まちづくりについて、基礎的、および、応用的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。	まちづくりについて、実践し得る応用的な知識を習得する。		◎				◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
20UHEC1280	家庭生活論	1	家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならない対象として私たちの前に立ちはだかっている。いわば人間として生きる上での戦略的拠点—家庭について理解を深めることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	次の3つのことを目指す。 1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。 2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。 3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎						◎			
20UHEC3130	保育学	3	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			
20UHEC3140	調理学実習	3	食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○		◎			◎			
20UHEC4110	家庭工学	4	家庭工学とは、家庭において工業技術の恩恵を受けていることやものを対象とした科目である。我々は、様々な道具や機械によって快適な家庭生活を送ることができている。それらを正しく、有効に使えるよう、原理から学び、機械類に強くなることを目指す。本科目は、高校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	家庭で使われる電気や機械や道具に関して、原理や意味を把握して使えるようになることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2											
20UHEC4120	食 物 学	4	食物の栄養成分が私たちの生命活動の維持や健康の保持に対してどのように関与し、なぜ食物の適切な摂取が必要であるかについて理解し、また健全な食生活を営むための基礎的な知識も修得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は、食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防が図れるように栄養の役割について理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎								
20UHEC4130	テキスタイルアドバイザー実習	4	テキスタイルアドバイザーとして、どのように活躍できるかについて、学外実習を通じて実社会の現状を体得し、自覚を深めるとともに視野を広めていく。	1級TAの資格取得者として、社会でどのように活躍できるかの理解を深めることを目標とする。														◎	◎
20UHEC1290	海外語学研修	1	英語を母語とする社会において生きた英語によるコミュニケーションの喜びを経験することによって、英語がグローバル・シチズンへのパスポートであることを認識する。異文化を直接経験することによって、欧米の文化を正しく理解し、同時に自国文化を再認識することを目的とする。	生きた英語によるコミュニケーションができるようになること、欧米の文化を体得し、同時に、自国の文化を再認識することが目標である。															◎
20UHEC1300	海外の生活環境研修Ⅰ	1	国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身につけることは必至である。本科目ではアメリカ分校（MFWI）において、1週間の生活環境演習を行うことを目的とする。	グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。さらに、専門分野における英語でのプレゼンテーション能力を磨くことも目標である。															◎
20UHEC2170	海外の生活環境研修Ⅱ	2	国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身につけることは必至である。本科目では、ヨーロッパでの建築やインテリアおよびファッションの研修に加えてヨーロッパ諸国の歴史や生活文化に触れて国際的な知識・感覚を深めることを目的とする。	グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。															◎
20UHEC3140	卒業基礎演習	3	4年次の卒業研究を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。	卒業研究の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。							◎	◎	◎	◎					
20UHEC4140	卒業研究	4	大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。	情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身につける。							◎	◎	◎	◎					